

【平成29年8月16日実施】

平成27年度、日本全国で飼われている犬や猫の数はおよそ1,979万頭と推計されています。その中で、1年間に自治体の保健所や動物愛護センター等に引き取られる犬や猫の数は、年間およそ13万7千頭にのぼります。

しかし、自治体等の返還・譲渡の取り組みにも限界があり、自治体に引き取られた犬や猫の約6割がやむなく殺処分されているのが現状です。

人と動物が幸せに暮らす社会の実現に向け、殺処分をできる限り減らし、最終的にはゼロにすることを目指すためには、どのような対策を講じるべきか、グループとしての意見をまとめてください。

【平成29年8月17日実施】

「人工知能技術*」は、人間社会に多大な便益をもたらすと期待される一方、不安を感じている人もいます。例えば、人工知能技術による自動運転車は人の不注意やミスで起きている事故を減らし、安全性を高めると言われていますが、事故を起こした場合、誰が責任を取るのか、人工知能に仕事を奪われてしまうのではないかと、などの疑念や不安が生じることがあります。

人工知能技術が人間社会にもたらす影響について、グループとしての意見をまとめてください。

*人工知能技術とは、人が知性を用いて行っていると思われる知的活動（認知、推論、学習、思考、これらに基づく行為など）の一部を代替する技術をいう。

【平成29年8月18日実施】

我が国の「食料自給率*1」は、長期的に低下傾向で推移しており、先進国中最低水準となっています。また、我が国の「食料自給力*2」についても、近年低下傾向にあり、将来の食料供給能力の低下が危惧される状況にあります。

食料の安定供給を確保するためには、食料自給率・食料自給力の維持向上を図ることが必要ですが、どのような取り組みを進めるべきか、グループとしての意見をまとめてください。

*1 食料自給率とは、国内の食料消費が国産でどの程度賄われているかを示す指標です。

*2 食料自給力とは、我が国農林水産業が有する食料の潜在生産能力を表すものです。

【平成29年8月21日実施】

我が国における若い世代の自殺は深刻な状況にあります。自殺対策白書によると、平成27年における年代別の死因順位では、5歳単位での統計をみると、15～39歳の死因はどの年代も自殺が第1位となっています。こうした状況は国際的にみても深刻であり、15～34歳の若い世代で死因の第1位が自殺となっているのは、先進国では日本のみとなっています。

若い世代の自殺の背景としてどのようなことが考えられるか、また若い世代の自殺を未然に防ぐためにはどのような取り組みが必要か、グループとしての意見をまとめてください。